

最優秀賞（県知事賞）

浅野 卓さん（北清水）

業研究会 後援 千葉県・毎日新聞社千葉支



第50回千葉県農業研究会営農改善実績発表大会が、1月31日県自治会館で行われました。

この大会は、農業者が実践している共同化や自立経営の方向・技術の研究成果について発表し、農業者相互の意見交換を通して今後の農業経営の改善を目的としたもので、横芝町農業研究会から浅野 卓さんが「集落の合意で取り組んだ水田転作」と、題して発表し最優秀賞（県知事賞）を受賞しました。

また、農業及び生活に関する研究実践集団活動を助長して農業の改良発展に貢献している成績優秀な農業活動功労者が表彰され、町では次の方が受賞されました。

農業研究会活動功労者賞

伊藤 良一さん（中台）

普及センターだより

今年の夏にはニガウリを食卓に！

ニガウリは熱帯アジア原産の野菜で沖縄を中心に九州地域で盛んに栽培されています。土地を選ばず、病気に強く、栽培も容易なので家庭菜園としても優れた野菜です。

ニガウリにはレモンの2〜3倍もの豊富なビタミンCが含まれています。通常ビタミンCは加熱すると壊れてしましますが、ニガウリの場合には熱してもほとんど壊れません。独特の苦味はモルデシンという成分で、食欲増進効果があり夏バテ防止には欠くことが出来ない野菜です。さらに血糖値を下げる作用や血圧を正常に保つ作用があることが最近の研究でわかっています。

苗作り

種まきは4月上旬〜下旬に行います。種子が硬いので、種の尖った先端を少しカットしてから、一晩水に

浸して播くと発芽しやすくなります。ポットに1〜3粒ずつ播き、ビニールフィルムで被覆し日中20℃以上になるようにします。本葉が出たら1本に間引き、500倍の液肥を7〜10日おき

与え、本葉2〜4枚になったら畑に定植します。育苗日数は20〜25日くらいです。購入苗を利用してもしっかりしよう。

肥料

・堆肥2〜3kg/m²
・苦土石灰100〜150g/m²
・化成肥料120〜150g/m²
(N・P・K 8・8・8)
定植する1週間前までに土と良く混ぜ合わせておきます。

定植

4月下旬〜6月上旬に1.5〜2mに1本の間隔で植付けます。早植の場合はホットキャップか小型トンネルで保温して活着を良くします。

整枝

本葉5〜6枚で親つるを摘み取ります。生育の良い子つるを2〜3本伸ばし、支柱を立てるかネットを張って、そこに絡ませるようにします。棚を作って誘引しても良いでしょう。

かん水・敷きわら

株元にわらや枯れ草を敷いて乾燥を防ぎます。乾燥には強いので、かん水はほとんど必要ありませんが、あまり乾燥するようであれば行います。

追肥

苗の活着時と、実が着きだした頃に1回あたり化成肥料100g/m²を追肥します。

収穫

開花後25〜30日で収穫できます。果実が熟すとオレンジ色になって割れてしまうので、その前に収穫するようにしましょう。

山武農業改良普及センター
0475-15410227